平成３１年度

予算の概要 参考資料

学校法人愛知医科大学

平成31年度予算について（1/4）
＜はじめに＞

祖父江元　新理事長就任

・平成31年1月28日就任
・メッセージ:「人作り」と「イノベーション」～愛知医大は人で持つ～
・キーワード①「自己実現」
　努力した人，頑張った人が報われる
　組織，各部局がこうありたいと願うことが実現できる
　目標やキャリアパスの描ける大学
・キーワード②「連携」
　地域，病院，診療所，大学，行政，国際等様々な連携を築くこと
　ウィン-ウィンの関係が重要
　連携のハブを目指す
　得意領域を持つ
・キーワード③「独自性」
　愛知医科大学ならではのものを目指す
　全国区の抜きん出た特徴，本学固有の遺伝子を育てる
　独創性を持って日本，世界をリードできる人をあるいは部署を育てる
・キーワード④「財政基盤の充実」，⑤「50周年事業の成功」，⑥「組織改編と組織評価」，⑦「研究の活性化」，⑧「教育の活性化」，⑨「国際化の活性化」等

平成31年度予算について（2/4）
＜はじめに＞

学是「 具眼考究 」の実践実現

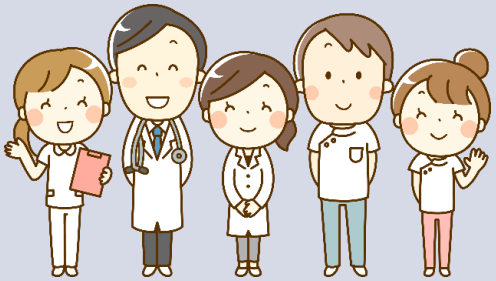
- 学是の実践を念頭に置いて編成作業を進めました。

- 「具眼」とは，江戸中期の画家で近年脚光を浴びている伊藤若冲の言葉として知られていますが，「確かな眼」，「見通す眼」，「眼力」，「慧眼」といった意味であり，医学的には「正しくみる」ことを意味します。「みる」とは「診る」，「看る」，「見る」，「観る」，「視る」のすべてを含み，個々の患者の正確な病態把握とともに生物学的，心理学的，経済的，社会的なすべての視点に立ち包括的，全人的に患者を把握する感性を意味します。更に卓越した研究・教育それに大学の正しい未来の方向性の洞察には「具眼」が必要です。「考究」とは，「具眼」によって得た神髄を深く考え，それに対して正しく対処して究めることを指します。

平成31年度予算について（3/4）

平成31年度予算編成方針

- 中・長期の財政計画では，2019年から2023年の5年間で医療情報システムの更新，新病院で整備した医療機器の更新及びキャンパス内既設建物の保全等大型設備投資を行ったうえで，2023年には，事業収支差額を名実ともに黒字化する。
- 支払資金の蓄積の加速を見込む。
- 予算は全学で危機感を共有し，
  オール愛知医科大学で編成に取り組む。



平成31年度予算について（4/4）

平成31年度予算編成方針

- 資金収支予算ベースでは，経済変動の影響を柔軟に受け止め，いざというときの瞬発力となる繰越支払資金の具体的な目標額を32億円とする。

- 事業活動収支予算ベースでは特殊要素を除き，黒字予算2億円以上の確保を図る。

事業計画の概況（1/6）

- 平成31年度予算編成方針を基に，特に重点的に取り組む事業は以下の通りです。

教育について（医学部）

- 長期的視点に立ち，開学100年に向けて飛躍的発展を遂げ続けるために「Project100」を掲げ，学部生については研究マインド養成を，大学院生については将来の指導者となりうる人材育成を目途として，大胆な見直し作業を進める。
- 日本医学教育評価機構による医学教育分野別認証のほかに，入学者選抜改革，国家試験対策等の重要項目がある。優秀な学生の確保のためにも医学部独自の特色を持ち，これをブランド力に高める。
- 診療参加型臨床実習の積極的導入に取り組む。昨今の実習重視の傾向にハードの面でも対応し，シミュレーションセンターの拡張等を進める。

事業計画の概況（2/6）

教育について（看護学部）

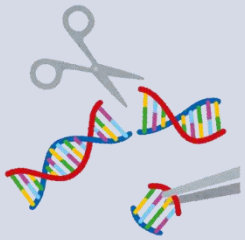
- 看護学部創設からまもなく20年。この間に県内の看護系大学は3倍となった。
- 今後も選ばれる看護学部のため，教員のFD活動を活発に行い，看護学モデル・コア・カリキュラムを参考に，教育内容の点検を行って，より充実したカリキュラムの策定に努める。
- 日本看護学教育評価機構により，看護教育における分野別評価の試行も始まることから，第三者機関による評価にも耐えうる教育内容を提供できるよう邁進する。

事業計画の概況（3/6）

研究について

- 外部資金の獲得
- 科学研究費補助金申請件数対策
  - Jump up作戦の継続 - 科学研究費計画調書の作成方法や採択のポイント等のノウハウが不足する研究者を研究活動実績のある者がサポート
  - 助教層における研究マインド醸成に向けた施策
- 研究創出支援センターにおけるバイオバンク活動
  - 正確な臨床情報と詳細な遺伝子情報を利用する近未来の臨床研究が数多く生まれることを期待
- がんゲノム医療
  - がんゲノム医療連携拠点病院の指定も視野

申請件数
（募集年度ベース）
H28：128件
H29：182件
H30：227件
H31：209件



事業計画の概況（4/6）

診療について①

- 診療科への人員配置の偏在解消
  - 診療科ごとの配置数と医療収入，教育の負担等を合理的に評価し，全体最適に努める。
- 臨床教員定数の中央化の検討
  - 人材を流動的に配置していけるようにする。

- 病院の活力の源である医員助教の増員

事業計画の概況（5/6）

診療について②

- 特定機能病院としての役割を果たせるよう常に最先端の医療機器を配備した最新医療を展開するため，医療機器を年次計画で更新，整備する。

- 核医学センターのSPECT－CT装置2式を更新する。そのうちの1式は，半導体SPECT－CTの導入を予定していますが，これは近年注目されつつある放射性医薬品による治療と診断を行う新しい医療技術「セラノスティックス」に最適な装置で，国内での導入施設は3施設しかなく，東海地区では初の導入となる。

- 脳神経外科領域では，脳血管，脊椎・脊髄，末梢神経，脳深部をカバーできる医師体制と必要な医療機器を整備する。

- 電子カルテを中心とした医療情報システムについて「SIMPLE＆PROGRESS」のコンセプトの下，年次計画で更新する。

事業計画の概況（6/6）

在宅・家庭医療学教育

- 人口減少，高齢化に伴い，在宅高齢者（虚弱，認知，骨折等）が激増することから，在宅・家庭医療学の教育体制を構築する必要があります。現在地域医療との両立を目指して，医学部・看護学部・地域医療機関と調整を進めています。在宅・家庭医療学教育の充実は，愛知医科大学の多職種連携・チーム医療教育の実践として，ユニークな取り組みと評価されるものと考えています。

地域への貢献

- 平成30年度私立大学研究ブランディング事業タイプA【社会展開型】に選定されました。研究課題は「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究」，長久手市と密接な連携をし研究を推進する。

財政基盤の強化

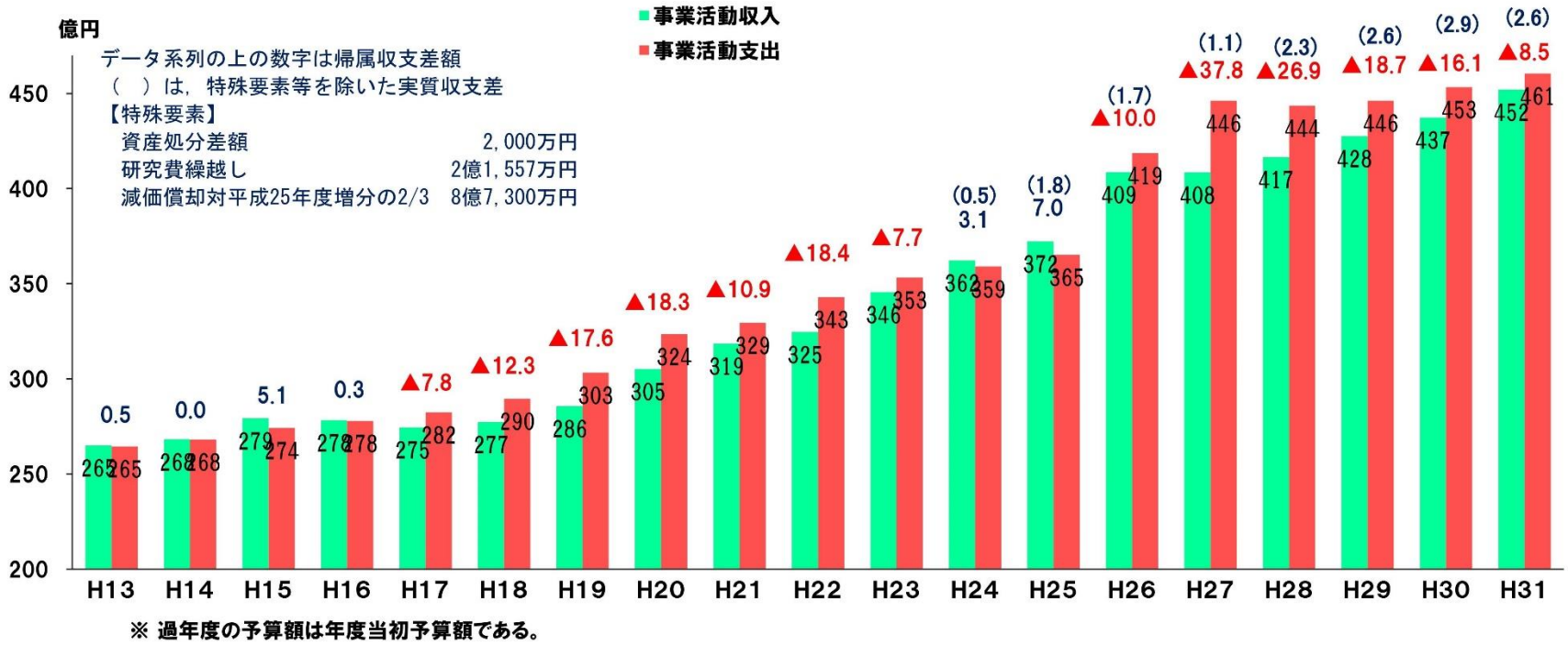
- キャンパス再整備を完了し，今後大きな資金を必要とするときに備え，確実に資金を増やし，財政基盤の強化に努める。

予算規模の推移

平成31年度の予算状況は，

事業活動収入　452億0,051万余円
事業活動支出　460億5,086万余円

となっており，事業活動収支差額は8億5,036万余円の支出超過となり赤字となっていますが，
特殊要素等を除いた実質の収支額は2億5,821万円の黒字予算となっています。



※ 過年度の予算額は年度当初予算額である。

教育・研究に関する重点事業
（1）教育環境の整備

OSCE施設整備事業
- OSCE実施必須課題数が今後増えていくことに対応するため，部屋を改修する。（36,379千円）

C棟8階カルテ庫のシミュレーションセンターへの改修
- シミュレーション教育やアクティブラーニングの増加に対応する。（24,652千円）

証明書自動発行機の更新
- 証明書自動発行機を更新し，各種証明書の自動発行で学生サービスの向上を図る。（14,883千円）

医学部学務情報システムの再構築事業
- 学生・教職員の利便性を高める。（1,132千円）

大学院医学研究科　学位情報等管理システム構築事業
- データの集約，分析を行えるようにする。（8,140千円）

総合学術情報センター図書館業務委託
- 土日祝日に委託職員の配置を行い，教職員との協働が特に必要となる平日に司書を配置する。（7,873千円）

教育・研究に関する重点事業
（２）医学教育改革

国際認証に備えた臨床実習の充実化

- 医学教育の国際標準化に対応し，臨床実習の充実化及び質的向上を図るため，５～６学年次開講のクリニカル・クラークシップ２（臨床参加型実習）及びBを学外協定施設でも実施する。（平成２７年度から実施の継続事業）（23,848千円）

医学教育分野別評価受審事業

- 平成３１年９月の医学教育分野別評価受審に係る経費 （10,329千円）

学長裁量費

- 教育改革につながる事業について，年度中臨機に対応できるよう，学長裁量費を予算化 （10,000千円）

教育・研究に関する重点事業
（３）引当特定資産を財源とする事業

教育研究活性化引当特定資産を財源

- 医学部若手研究者に対する教育研究奨励助成を実施する。（6,003千円）
- 看護学部若手研究者に対する研究助成を実施する。（1,500千円）

国際交流推進引当特定資産を財源

- 外国人研究者に対する滞在費助成を実施する。（11,669千円）

教育・研究に関する重点事業
（4）研究環境の再生整備

総合医学研究機構研究基盤設備再生事業（2か年計画/2年目）

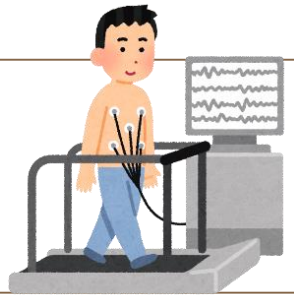
- オミクス解析に基づく病態関連分子の同定と臨床応用システムに必要な次の機器を整備する。（85,065千円）
  - リニアイオントラップ LC/MS/MSシステム
  - 共焦点レーザー走査型顕微鏡

放射線モニタリングシステム更新

- 放射線安全管理を適切に行って，研究者の安全確保と法令を遵守するため，核医学実験部門の放射線モニタリングシステム中央監視装置を更新する。（13,093千円）

運動療育センター　メディカルチェック機器の更新

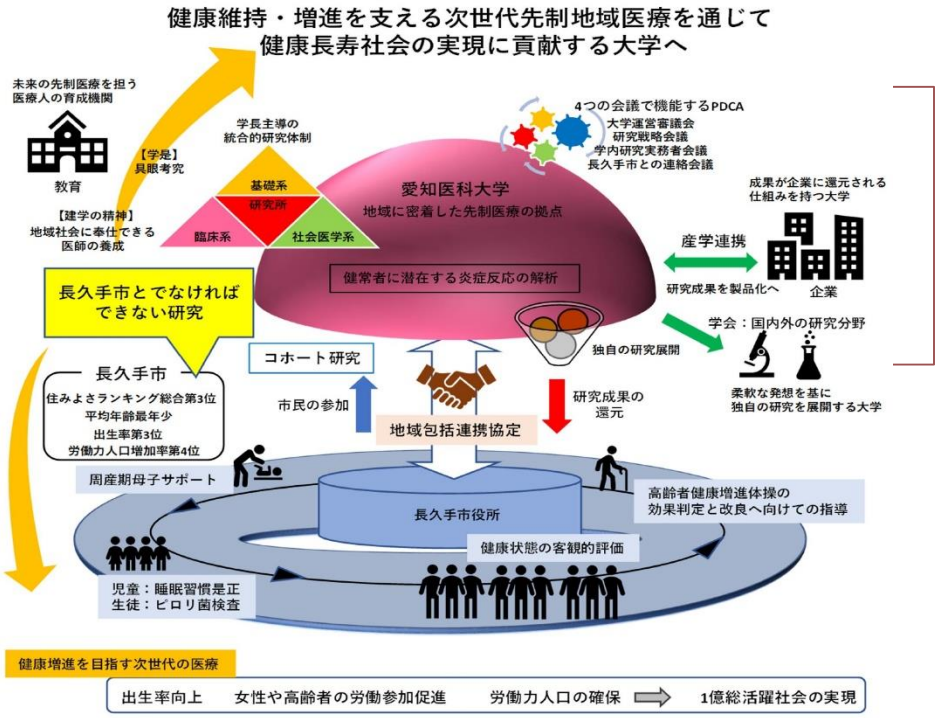
- 運動療育センターのメディカルチェック用機器が老朽化で部品も入手困難のため更新。エルゴメーター一式及びトレッドミル一式を更新する。（25,704千円）



教育・研究に関する重点事業
（5-1）研究活動の活性化

私立大学研究ブランディング事業

- 私立大学研究ブランディング事業「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究」を実施する。（40,000千円）



バイオバンク事業における患者向け説明PVの作成及び運用

- バイオバンク事業において，検体収集の機会が増加すると現場の主治医の事業に関する患者への説明負担が増すことや，説明者によって表現が異なることを防ぐため，患者向け説明プロモーションビデオを作成し，説明に利用する。（6,650千円）

教育・研究に関する重点事業
（5-2）研究活動の活性化・教員評価制度

課題解決型高度医療人養成プログラム

- 課題解決型高度医療人養成プログラム（慢性の痛みに関する領域）を実施し，慢性の痛みに関する教育プログラムの構築を行う。（690千円）

基礎研究医養成活性化プログラム

- 基礎研究医養成活性化プログラムを実施し，基礎研究医および及び病理学・法医学研究医を養成する。（830千円）

教員評価制度の処遇反映

- 処遇反映制度を導入することで，教員のモチベーション向上を狙う。（1,200千円）

医療に関する重点事業
（１）教員の増員

（総額60,713千円）

病院長枠助教3名分増員

- 診療体制を充実させ，増患，増収を図るため，病院長枠で助教3名分の増員を図る。

脊椎・脊髄センターに教授（特任）ポストを設置

- 需要への対応，センターの活性化，収益の増加，教育の充実を図る。

臨床腫瘍センター（腫瘍外科部門）に准教授ポストを設置

- 本学のがん治療体制の充実を図る。

緩和ケアセンターに准教授ポストを設置

- 緩和ケアチームやNSTのマネジメントと教育指導を円滑に行えるようにし，地域連携強化や業務発展につなげる。

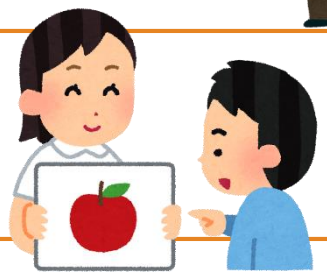
医療に関する重点事業
（2）スタッフの増員

（総額94,012千円）

薬剤師4名の増員

- 薬剤部の業務拡大及び課題解決のため，薬剤師を4名増員する。

言語聴覚士の1名増員



- 入院患者の重症度が上がり，急増するリハビリテーションに対応するため，言語聴覚士を1名増員する。

専修医の11名増員

- 専修医を11名増員し，病院の活性化につなげる。

管理栄養士（嘱託）の1名増員

- 管理栄養士（嘱託）を1名増員し，管理栄養士が担う臨床現場での業務の充実を図る。

医療に関する重点事業
（３）継続事業

先進医療推進事業

- 病院の基本方針のひとつである「先進的医療技術の開発・導入・実践の推進」に従い，先進医療が認められるための実績づくりに必要な経費を予算化する。（10,000千円）

メディカルクリニック広報事業の強化

- 7診療科の診療を毎日行っていることなどの新体制を周知し，新たな患者の獲得並びに外来患者数の増加を図る。（5,222千円）

国際規格「ISO15189」

- 検査関連部門における国際規格「ISO15189」の認定を維持する。（2,300千円）

大学院学生（NP）奨学金

- 愛知医科大学病院大学院学生（NP）奨学金の貸与を継続する。（2,400千円）

医療に関する重点事業
（４）診療用機器の整備

（総額618,000千円）

X線CT組み合わせ型SPECT－CT装置2式，血管撮影装置

- 旧病院から移設した放射線機器等が更新時期を迎えたことから，大学病院として高度な医療の提供を維持するため，最新機器を導入する。

全自動輸血検査装置

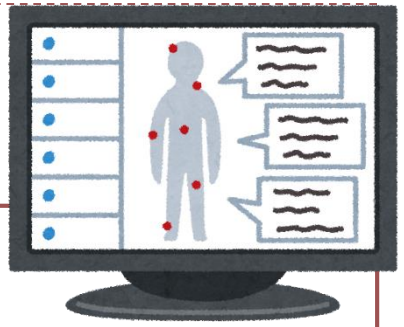
- 全自動輸血検査装置を更新し2台の運用体制とすることで，処理能力の向上や24時間バックアップ体制の構築などを図る。

メーカーサポート終了に伴う更新等

- メーカーサポートが終了する人工心肺装置，経皮的心肺補助システム，画像診断センター3D画像配信システム，一般撮影検像システムを更新する。

医療に関する重点事業
（５）医療情報システム更新関連

（総額367,223千円）



電子カルテシステム

- 更新のタイミングを迎える電子カルテシステムのうち，内容が確定したシステムから更新を進める。

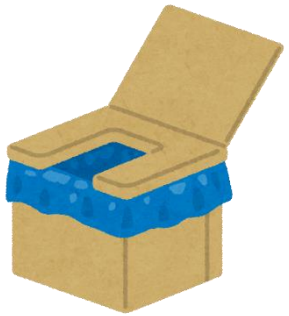
支援コンサルタント

- 医療情報システム導入支援業務委託契約を行い，進捗管理等の支援コンサルタントを委託する。

医療に関する重点事業
（6）災害・感染対策

BCPにおける災害対応

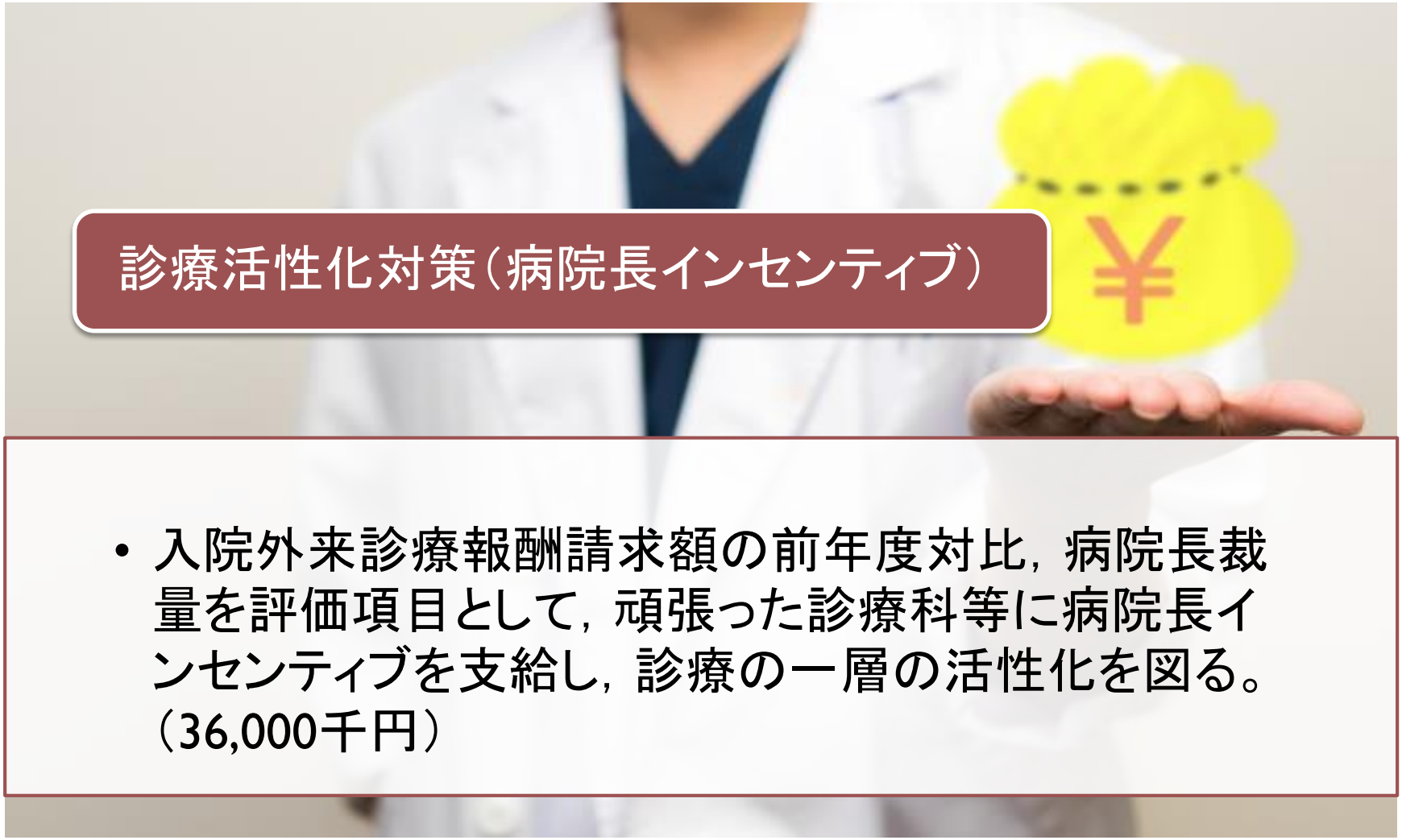
- BCP（業務継続計画）における災害対応事業として，医療機器や棚の固定工事，災害用トイレセットの整備を行う。（3,500千円）



MRSA対策

- MRSA対策のため，NICU・GCU等の医療機器の清掃業務を強化する。（5,232千円）

医療に関する重点事業
（７）診療活性化対策



診療活性化対策（病院長インセンティブ）

- 入院外来診療報酬請求額の前年度対比，病院長裁量を評価項目として，頑張った診療科等に病院長インセンティブを支給し，診療の一層の活性化を図る。（36,000千円）

法人・大学運営に関する重点事業
（1）省エネ事業

（総額89,315千円）

4号館（看護学部棟）

- 4号館（看護学部棟）の経年劣化したビルマルチエアコンと照明器具を更新する。

節水水栓器具の取り付け

- 病棟（中央棟，C棟）の蛇口・シャワーヘッドに節水水栓器具を取り付け，上水使用を効率化し，光熱水費の節減を図る。

法人・大学運営に関する重点事業
（２）建物修繕

C棟屋上井水高置水槽修繕工事

- 経年劣化（S58設置）による腐食等が発生したC棟屋上に設置の鋼製井水高置水槽の水槽天板について，FRP補強を行い，水槽外周全体の塗装補修工事を行う。（10,800千円）

１号館（大学本館）他外壁の保全

- １号館，４号館及び7号館のタイル浮き等の点検を行う。(3,600千円）

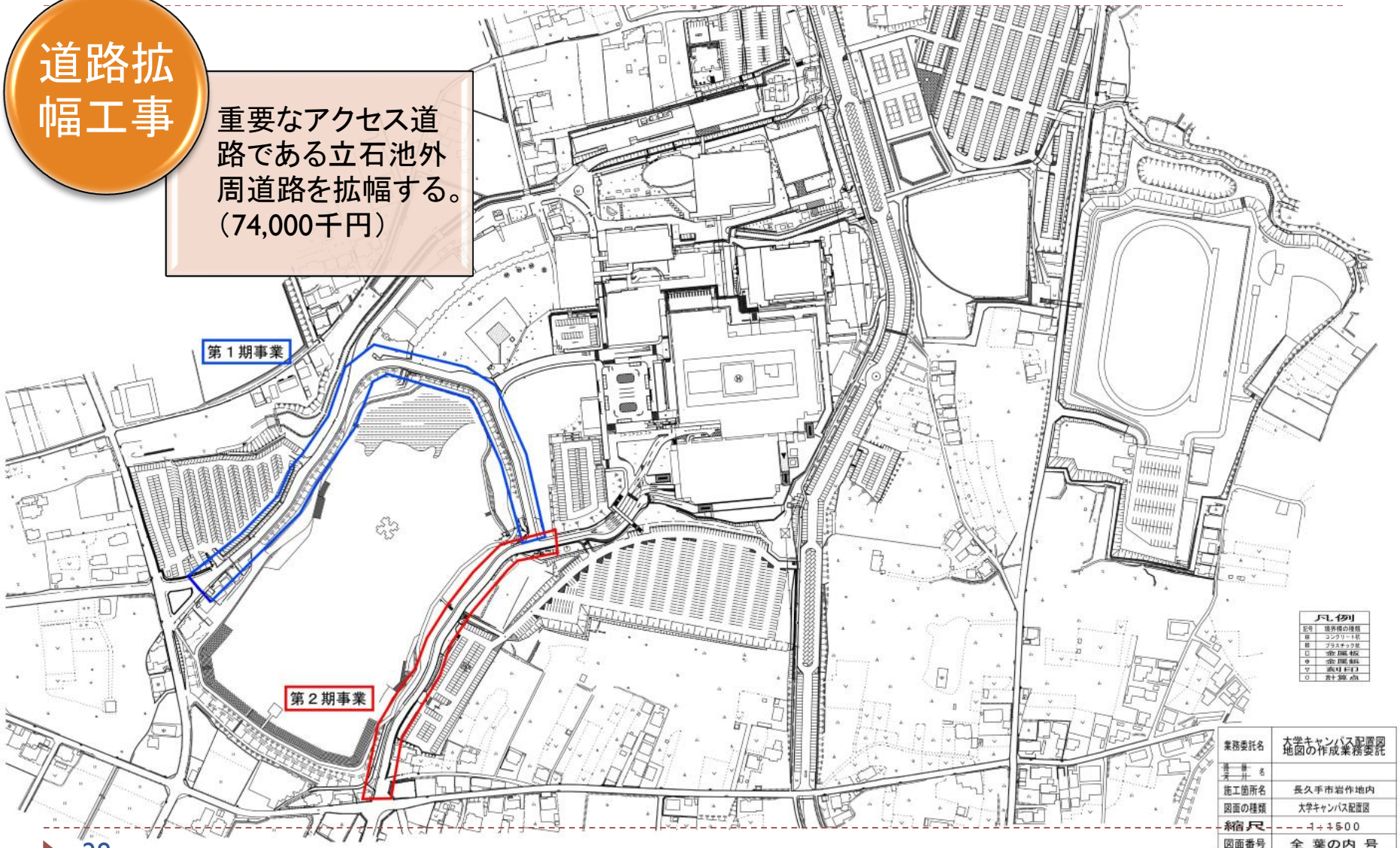
１号館自動火災報知設備更新工事

- 設置から13年が経過した1号館の火災報知器の更新を行う。(7,570千円）

中央棟電話交換機携帯局線収容基盤（PRI）増設工事

- PHS電話サービス終了(2020年7月）による内線電話接続可能な携帯電話への切替に伴い，通話回線確保のため，局線収容基盤2枚を増設する。(2,160千円）

法人・大学運営に関する重点事業
（３）立石池外周道路（第２期）拡幅事業

道路拡幅工事

重要なアクセス道路である立石池外周道路を拡幅する。
（74,000千円）